

# 証券化商品販売等規則・SIRP及び 証券化商品の発行動向について

平成22年11月12日

日本証券業協会

# 1. 証券化商品販売等規則・SIRP

(背景)

- 米国サブプライム問題に端を発する世界的な金融問題への対応のうち、証券化商品の透明性向上は、重要な課題の一つ。
- 我が国でも、証券化商品の追跡可能性(トレーサビリティ)確保が重要との指摘。

# 1. 証券化商品販売等規則・SIRP

(背景)

- 日本証券業協会では、我が国の証券化商品には、米国のように、複雑な商品組成によって「リスクの所在の不確実性」が問題となる事例はみられていないが、今後も引き続き問題事例が起こらないよう手当てしておくことが重要との考えの下、平成21年3月に「証券化商品の販売等に関する規則」及び「標準情報レポーティング・パッケージ(Standardized Information Reporting Package。以下「SIRP」)を制定し、同年6月に施行。

# 1. 証券化商品販売等規則・SIRP

(内容)

- 日本証券業協会の協会員は、証券化商品を販売するに当たって、投資家である顧客に対し、当該証券化商品の原資産等の内容やリスクに関する情報を適切に伝達するための態勢整備を行う。
  - 販売に先立つ情報収集及び分析
  - 販売に当たっての顧客への情報の伝達
  - 販売後も、顧客の要望に応じた情報収集・分析・顧客への伝達

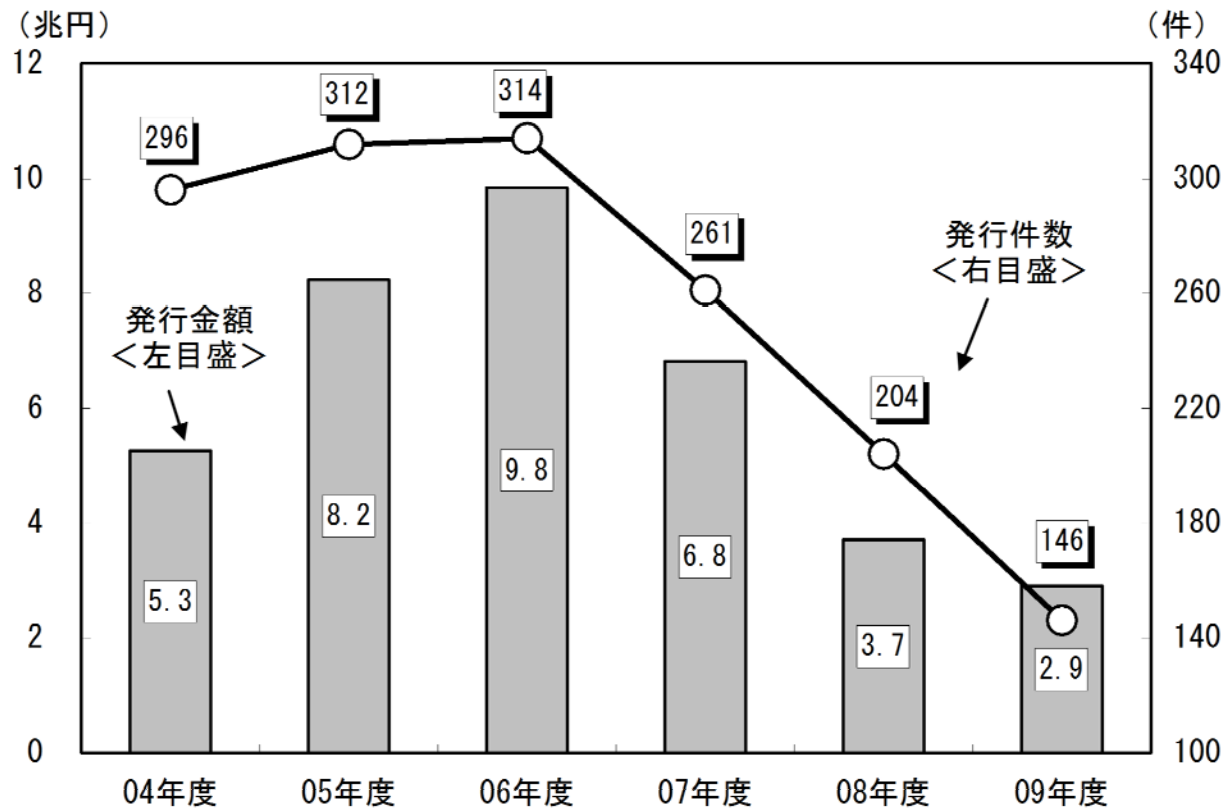
# 1. 証券化商品販売等規則・SIRP

(内容)

- 協会員は、顧客への情報の伝達を行うに当たり、適切な場合には、SIRPを参考として用いることができる。
- SIRPは、情報の目線合わせとして作成されたもの。
  - RMBS(我が国住宅ローン債権を裏付けとする証券化商品)
  - 狭義ABS(我が国リース債権、クレジット債権等を裏付けとする証券化商品)
  - CLO(我が国企業向け貸付債権等を裏付けとする証券化商品)
  - CMBS(我が国商業用不動産ローン債権等を裏付けとする証券化商品)

## 2. 証券化商品の発行動向

(証券化商品全体の発行動向)



出典:「証券化市場の動向調査～2009年度の発行動向～」(日本証券業協会・全国銀行協会)

## 2. 証券化商品の発行動向

(証券化商品全体の発行動向)

○ 2009年度における証券化商品の発行動向をみると、金額、件数ともに、前年度を下回り、調査開始(2004年度)以来、過去最小となった。

- ・ 金額2.9兆円 <前年度比▲22%>
- ・ 件数146件 <前年度比▲28%>

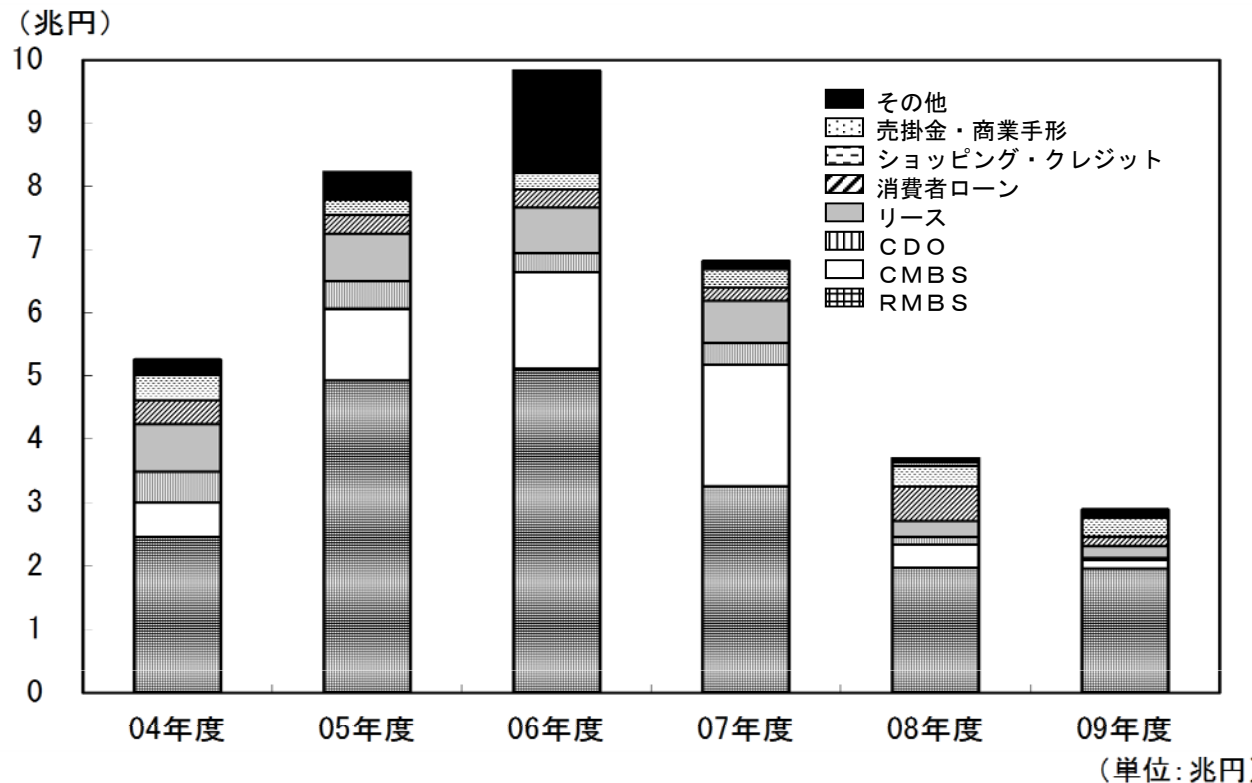
(参考) 普通社債の発行金額

(単位：兆円)

2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
5.9	6.9	6.8	9.4	9.6	10.3

## 2. 証券化商品の発行動向

### (裏付資産別の発行動向)



	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
証券化商品全体	5.3	8.2	9.8	6.8	3.7	2.9
うちCMBS	0.6	1.1	1.5	1.9	0.4	0.1

出典:「証券化市場の動向調査～2009年度の発行動向～」(日本証券業協会・全国銀行協会)



## 2. 証券化商品の発行動向

(裏付資産別の発行動向<2009年度>)

	金額		構成比	
		前年度比		前年度比
RMBS	2.0 兆円	0%	68%	15%
CMBS	0.1 兆円	▲ 65%	5%	▲ 5%
CDO	0.0 兆円	▲ 66%	1%	▲ 2%
リース	0.2 兆円	▲ 31%	6%	▲ 1%
消費者ローン	0.2 兆円	▲ 72%	5%	▲ 10%
ショッピング・クレジット	0.3 兆円	▲ 7%	11%	2%
売掛金・商業手形	0.0 兆円	▲ 53%	1%	▲ 1%
その他	0.1 兆円	68%	4%	2%
合計	2.9 兆円	▲ 22%	-	-